

シグマ研究委員会 崩壊熱評価W.G. サブグループ会合議事録

日 時 昭和53年10月19日 13:30 — 17:30

20日 9:30 — 17:00

場 所 原研, 東海研核データセンター

出席者 松本純一郎, 山本 徹, 中嶋 龍三

報告および議事

1) インプット・データ記入のアルバイト

第1回分(オリジナルのレポート用紙で約200枚)は, アルバイトの人に依頼した部分だけは終了した。誤りは非常に少ない。しかし, われわれが記入すべき部分はかなり残っているので, 分担して作業しなければならない。

A = 93から99までの収集(村田氏担当)以外は, 収集が完了したので, 第2回分を依頼する。

2) ベータ強度(I_β)の誤差の推定値

議論の結果, 今回は次のようにすることに決めた。

g, s, への β がない場合 : $\Delta I_\beta = 10 \sim 15\%$

g, s, への β が30%以上 : $\Delta I_\beta = 20 \sim 25\%$

30%以下 : $\Delta I_\beta = 15 \sim 20\%$

3) スペクトル計算値をMTに書く場合, 誤差部分の桁をふやすようにする。

4) isomeric state について

a) g, s, か isomerかわからない場合, どちらかをGとし他方をMとする。

3つある場合には, G, M1, M2とする。

b) β がなく isomeric transition だけの場合は,

$\langle E_{ce} \rangle + \langle E_x \rangle = Q_\beta - \langle E_\gamma \rangle$ として, これを $\langle E_\beta \rangle$ に入れる。

c) β がある場合, CEを無視して I_γ を変更する。たとえば, $^{144}\text{Pr}^m$ の59.03 keV ITでは, $I_\gamma = 42.35\%$ で $I_{ce} = 57.61\%$ であるが, $I_\gamma = 99.96\%$ とする。

5) 内部転換および電子捕獲には, まだ議論すべき点が多々ある。

以上の議論に基づいて, インプット・データ記入およびPROFP計算の作業を行なった。